

(資料1 - 1)

2021年3月25日時点

(仮称)三茶のミライ
(三軒茶屋駅周辺まちづくり基本計画)

素案たたき台

この資料は、計画版です
計画版は、冊子版とのつながりを考慮したうえで一部
にデザインを施します

世田谷区

令和3年(2021年)XX月

目次

はじめに	3
第1章. 「三茶のミライ」策定の趣旨	4
1.1 策定の背景と目的	4
1.2 策定にあたって	5
1.3 対象区域	6
1.4 「三茶のミライ」の位置付け	7
1.5 三軒茶屋駅周辺まちづくり基本方針	8
第2章. 「三茶のミライ」で描くまちの未来像～みんなの思いを計画に～	9
2.1 「まちの未来像」の描き方	9
2.2 みんなで描いた「まちの未来像」	10
2.2.1 まちづくり会議とまちづくりシンポジウム	10
2.2.2 みんなの意見を分類したまちづくりのテーマ	12
2.2.3 みんなの言葉とまちづくりのテーマ	13
2.3 みんなの思いから導き出した9つの未来像	14
2.4 基本方針の方針・方策と9つの未来像の繋がり	15
第3章. 9つの未来像と取組み～みんなで作る「未来」～	16
3.1 9つの未来像と取組みの体系図	16
3.2 未来像の概要	17
3.3 未来像実現のための取組み	19
3.3.1 取組みの考え方	19
3.3.2 9つの未来像を実現するための取組み	21
3.3.3 9つの未来像実現に結び付くまちの空間デザイン	35
コラム	37
第4章. 今後の展望～みんなの思いをまちづくりに～	38
4.1 まちの未来像実現に向けたまちづくり	38
4.1.1 参加と協働による持続可能なまちづくり	38
4.1.2 まちづくりを推進するための仕組みづくり	39
4.1.3 まちづくりを推進するための仕組みを支える組織について	40
4.2 「まちの未来像」実現のためのまちづくりの推進体制	41
4.2.1 まちづくりの実施主体について	41
4.2.2 組織の成熟に伴うまちづくり推進体制について	42
4.3 まちづくり推進体制構築に向けたロードマップ	43
4.4 みんなで取組み未来像実現に向けたイメージ	45

添付資料 目次

添付資料1 「三茶のミライ」検討経緯

添付資料2 取組み一覧

添付資料3 まちづくり推進体制の事例集

添付資料4 三軒茶屋駅周辺まちづくりニュース

はじめに

区長のあいさつを挿入（0.5 ページ～1 ページ程度を想定）

- ・ 歴史（キャロット建設までの）
- ・ 広域生活文化拠点としての位置付け
- ・ 三軒茶屋駅周辺まちづくりの思い（様々な主体がまちづくりを実施し、三茶のミライを作っていく）
- ・ 基本方針策定後、三茶のミライを作る理由（三茶の未来像や取組みを考えることでまちづくりを自分事と認識し、推進させるためのきっかけとする。また、既存の取組みを強化していくため。）（三茶のミライの検討経緯を少し記載する。）
- ・ 実現したいこと（まちが自立してまちづくりを進めていくことで、持続可能な都市経営を実現していく。）

第1章 「三茶のミライ」策定の趣旨

1.1 策定の背景と目的

広域生活・文化拠点である三軒茶屋駅周辺は、平成8年にキャロットタワーが完成して以来、まちの構造に大きな変化はありません。一方、3つある広域生活文化拠点の1つである二子玉川では、再開発事業を契機としたまちづくり、もう1つの下北沢では、小田急線連続立体交差事業を契機としたまちづくりによって、まちの姿が大きく変わる中、ハードだけでなくソフトのまちづくりにも活発に取り組んでいます。こうした区の拠点におけるまちづくりや渋谷駅周辺における再開発など、近隣の変化を踏まえながら、三軒茶屋駅周辺においても、区の東の玄関口にふさわしい、ソフトとハードの両面を一体に捉えた総合的なまちづくりに取り組み始めました。その第一歩として、区民・事業者・区など多様な主体がビジョンを共有し、連携してまちづくりを進めるために、都市整備方針など、既存の計画や地域の特徴・歴史を踏まえながら、「三軒茶屋駅周辺まちづくり基本方針（以下、「基本方針」という。）」を平成31年3月に策定しました。

基本方針では、まちのビジョンに「進化し続ける交流のまち『三茶 Crossing』」が掲げられています。これには、まちの象徴でもあり歴史的な追分けでもある三軒茶屋交差点や、「人と人が交流する」「道路や鉄道が交差する」「地上のまちと地下鉄が交差する」「様々な機能を掛けあわせる」などの意味が込められています。このまちのビジョンを実現するためには、未来の姿を思い描きながら、これからの取組みを考え、一歩ずつ着実に進めていくことが重要です。そのため、これまでのまちづくりの取組みを踏まえつつ、身近な困りごとの解決など、できることから始めて、みんなで思い描いた未来像の実現のための具体的な取組みを着実に積み上げていかなければなりません。また、こうした取組みを実施していくためには、様々な主体がそれぞれの役割に応じて、相互に連携していく必要があります。

みんなが同じ方向を目指してまちづくりを進めていくためには、羅針盤となる未来像や、取組みを支える推進体制が必要となります。「三茶のミライ（三軒茶屋駅周辺まちづくり基本計画）」（以下、「三茶のミライ」という。）は、まちづくりの羅針盤であるまちの「未来像」と「未来像を実現するための取組み」及び「まちづくりの推進体制の方向性」を示すガイドブックとして策定しました。

●なぜ「三茶のミライ」？

「三茶のミライ」という名前は、この計画を誰でも親しみやすく気さくに手に取ってもらえるように、「三茶」という気さくさと、カタカナの「ミライ」が出すポップさと柔らかさを掛け合わせて命名しました。



1.2 策定にあたって

「三茶のミライ」の策定にあたっては、様々な分野が横断的に包括された「みんなの計画」とするため、地域の方々や三軒茶屋駅周辺で活動するの方々をはじめ、専門的な知見を持つ有識者及び民間事業者など、多様な属性からの意見を踏まえることが重要です。そこで区では、地域の代表者や有識者などで構成する三軒茶屋駅周辺まちづくり検討委員会（以下、「まちづくり検討委員会」という。）や、区民、商店街、民間事業者、大学などが幅広く参加する三軒茶屋駅周辺まちづくり会議（以下、「まちづくり会議」という。）を開催しました。また、まちづくりを推進させていくための三軒茶屋駅周辺まちづくりシンポジウム（以下、「まちづくりシンポジウム」という。）を開催し、「三茶のミライ」の検討のために様々な意見を聞いたり、まちづくりの気運を醸成しました。

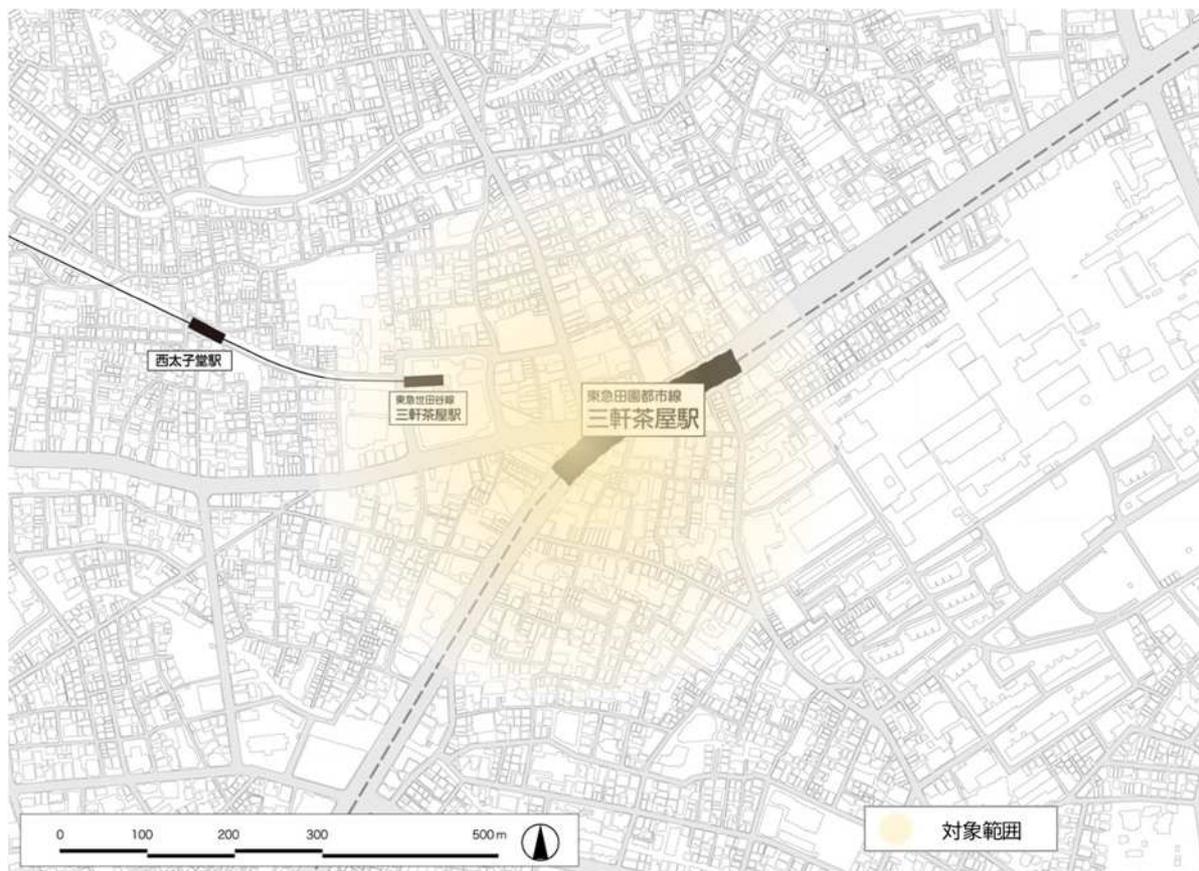
新型コロナウイルス感染症による社会の変化がもたらしたまちづくりの方向性として、職住近接や歩いて暮らせるまち、ゆとりあるオープンスペース¹へのニーズの高まりなどが言われており、都市の持つ集積のメリットを活かしながら、コロナ禍の先を見据えた取組みを検討していかなければなりません。「三茶のミライ」は、社会情勢の変化を捉え柔軟に更新し、まちづくりの主役となるみなさんと共に、常に進化し続けていくことが重要であると考え、あえて計画の期間を設けていません。

¹ 多様な主体が使用できる公共と民間の土地です。例えば、広場、パティオ、連絡通路、公開空地などがあります。

1.3 対象区域

「三茶のミライ」の対象区域は、基本方針と同様、三軒茶屋交差点を中心とした概ね半径 300m 以内の範囲とします。(図表 1.3.1 参照)

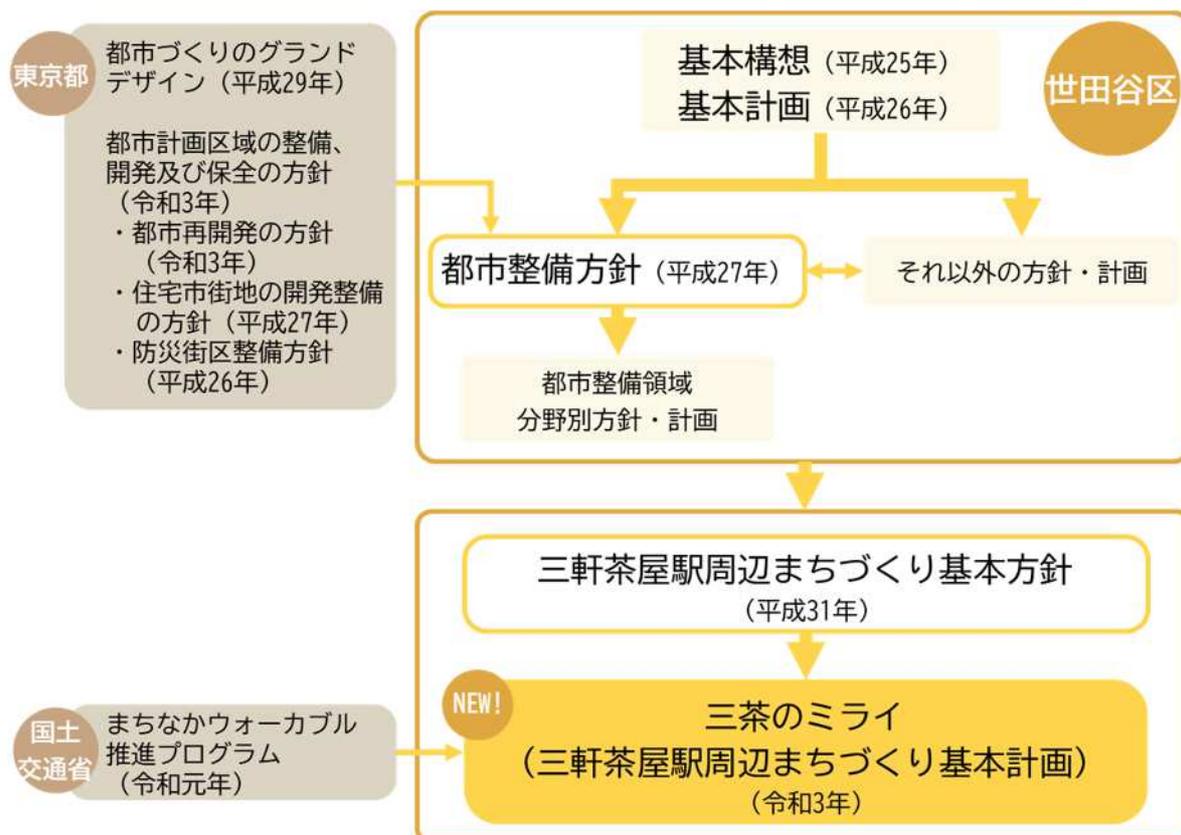
図表 1.3.1 対象区域



1.4 「三茶のミライ」の位置付け

「三茶のミライ」は、東京都の方針や国の政策、本区の基本構想・基本計画、都市整備方針など、三軒茶屋駅周辺のまちづくりに関する各種方針を上位概念とします（図表 1.4.1 参照）。その中でも、基本方針を上位方針に位置付けて、まちづくりを進めていくこととします。

図表 1.4.1 「三茶のミライ」の位置付け



※「三茶のミライ」の上位方針となる基本方針については、三軒茶屋駅周辺でまちづくりを行う基となるため、1.5節で詳しく後述します。

※「三茶のミライ」は、社会情勢の変化を捉え柔軟に更新し、まちづくりの主役となるみなさんと共に、常に進化し続けていくことが重要であると考え、あえて計画の期間を設けていません。

【まちなかウォークアブル推進プログラム】

国土交通省では、都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会から提言された、『「居心地が良く歩きたくなるまちなか」から始まる都市の再生』を受けて、令和元年に「まちなかウォークアブル推進プログラム」として予算や税制改正等を取りまとめています。

また、このプログラムに賛同し、情報共有や意見の提案などを行う自治体(ウォークアブル推進都市)を募集、公表して施策の推進をしており、本区も賛同しています。

1.5 三軒茶屋駅周辺まちづくり基本方針

「三茶のミライ」の上位方針である基本方針では、まちの特色として「継承し、残していきたいまちの魅力」、「空間・動線や安全面での課題の多い都市基盤」、「発展の契機を活かした新しい魅力創出の可能性」を挙げています。(図表 1.5.1 参照)

そのうえで、三軒茶屋駅周辺のまちのビジョンとして「進化し続ける交流のまち『三茶 Crossing』」を掲げ、実現に向けて、まちの個性を継承・強化する「つたえる」、まちを支えつなく「つなげる」、魅力を育て機能を高める「はぐくむ」という3つの方針を示しています。また、それぞれの方針に基づいて9つの方策も示されました。

「三茶のミライ」では、この基本方針と繋がるまちの未来像を検討しています。

図表 1.5.1 基本方針の体系

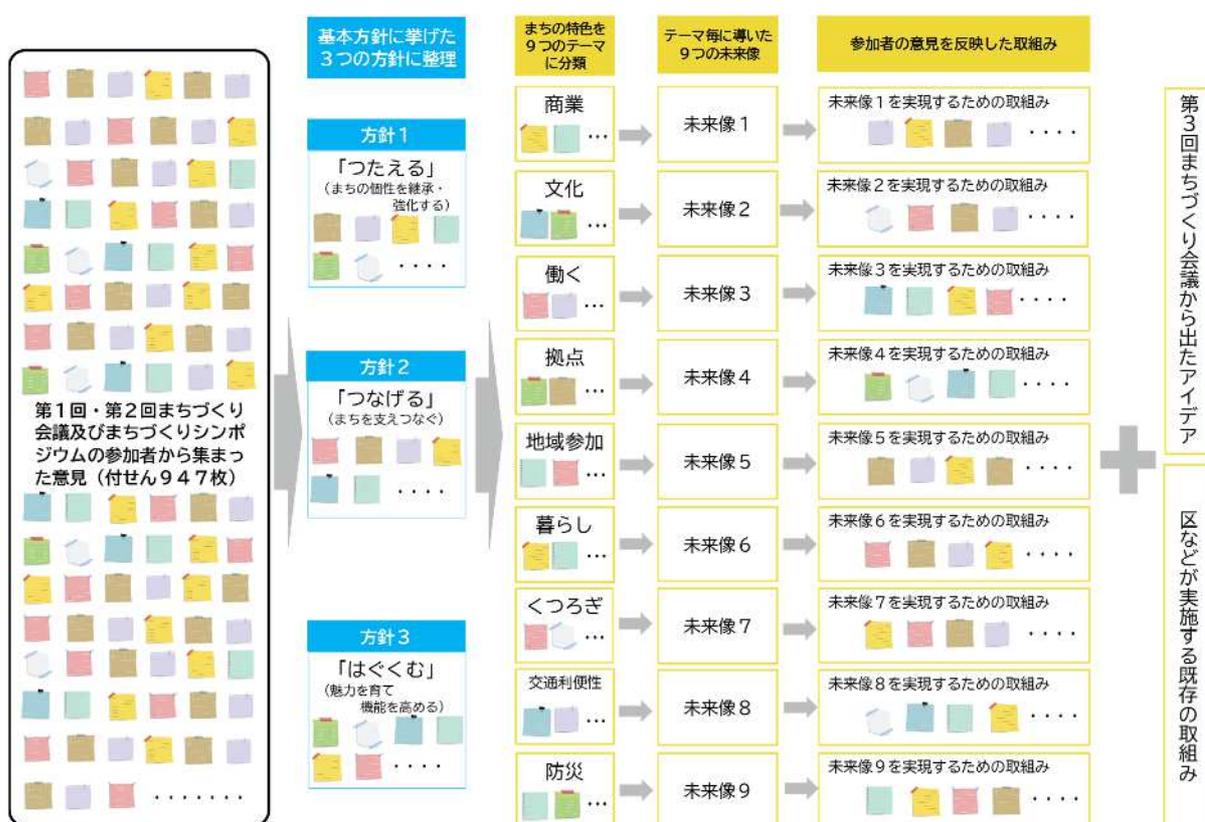


第2章. 「三茶のミライ」で描くまちの未来像～みんなの思いを計画に～

2.1 「まちの未来像」の描き方

「三茶のミライ」は、基本方針のまちのビジョンを踏まえ、多様な主体が連携したまちづくり活動を行う「みんなの計画」であるということの基本理念とし、1.2節で示している「まちづくり会議」と「まちづくりシンポジウム」に参加した三軒茶屋駅周辺に住んでいる方、通勤、通学、三茶が好きな方など、多様な方々から947枚の付せんに生声をいただきました。こうした参加者の声を図表2.1.1のような手順で整理・分類・分析し、9つの未来像と未来像を実現するための取組みを描き出しています。また、検討状況もまちづくり会議で共有しながら、さらに意見やアイデアを募るなど、参加者の声を大切に、検討を進めました。次節から「みんなの計画」となるように、まちの未来像をどのように描いたか検討過程を示します。

図表 2.1.1 「まちの未来像」の描き方



2.2 みんなで描いた「まちの未来像」

2.2.1 まちづくり会議とまちづくりシンポジウム

基本方針 3 つの方針やまちの特色を踏まえながら、さらに多様な人々が考えるまちの課題や特色を知ること、これから目指すべき「まちの未来像」へと繋がると考えています。三軒茶屋駅周辺のまちに関わる区民や事業者など老若男女が参加したまちづくり会議のワークショップや、まちづくりシンポジウムを通じて「まちの魅力」や「理想の未来像」、「取組み・アイデア」など、様々な意見を共有しました（図表 2.2.1 参照）。

図表 2.2.1 まちづくり会議とまちづくりシンポジウム概要

会議名称等	概要
<p>まちづくり会議（第 1 回） （2019 年 10 月）</p> 	<p>【テーマ】あなたが知っている三茶の魅力をみんなにシェアしよう 【ワーク 】「三茶のいいね」を共有しよう 【ワーク 】「三茶の魅力再発見マップ」をつくろう 【主な意見】 都心部へのアクセス性や立地の良さ、日常生活における買い物のしやすさや個性的な店舗や魅力的な飲食店等に関する意見が多く出ており、「個性」「コミュニティ」「多様性」「庶民感」「レトロ」「文化」「イベント」「商店街」等のキーワードが主に挙げられました。</p>
<p>まちづくり会議（第 2 回） （2019 年 11 月）</p> 	<p>【テーマ】「イマ」を「ミライ」に近づけるアクションを考えよう！ 【ワーク 】三茶の「ミライ」を思い描こう 【ワーク 】「ミライ」へ向けたアクションを考えよう 【主な意見（理想の未来像）】 ・理想の未来像 第 1 回まちづくり会議で魅力として挙げられたキーワードを含む意見が多く、「個性豊かなお店」「文化」「住みやすい」「みどり」「レトロ」「多様性」「コミュニティ」「職住近接」「回遊性」「ゆとり」「個性・名物・新しい魅力」「外からも遊びに来たくなる」「安心への備え」「災害から守られる」等に関する意見がありました。 ・取組み・アイデア 「公共空間を活用したアートやイベント開催」、「名物づくり」、「まちづくりに関する規制緩和及び強化」、「シェアサイクル」、「基盤整備」、「空き家活用」、「大学・公共機関との連携」等がアイデアとして挙げられました。また、「自分たちでできることは自分たちでやる」という意見から「まちづくり組織の設立」といったアイデアも出てきました。</p>

会議名称等	概要
<p>まちづくりシンポジウム (2019年12月)</p> 	<p>【基調講演】メディアの視点から見た“三茶”のまちの魅力と課題(株式会社マガジンハウス コロカル編集長 及川卓也氏) 【三軒茶屋のまちづくり】世田谷区による取組み報告 【トークセッション】7名によるパネルディスカッション 【主な意見】 地域デビューしやすいきっかけをもっとつくっていく、パブリックシアターなど文化的発信、玄関口としての多様性と安全面の確保、交通結節点の駅らしいバス乗り場・タクシー乗り場をどう整備するかなど、パネリストに話していただきたいトークテーマが挙げられました。また、「市民活動が活発!!おでかけひろば、イベント運営」といったアイデアも挙げられました。</p>
<p>まちづくり会議(第3回) (2021年1月)</p> 	<p>【テーマ】“三茶”でのまちづくりを推進する担い手と一緒にまちのミライを考える 【プログラム】三茶のミライの検討状況 【プログラム】まちづくりの活動者による活動紹介・意見交換 【プログラム】今後に向けて 【主な意見】 屋外空間の有効活用に向けたアイデア(ストリートファニチャー²の設置、飲食店のテイクアウト出店、路上ライブ、こどもの遊び場づくりなど)、回遊性向上のアイデア(歩道拡幅、シェアドスペース³化、時間指定のレーンマネジメント⁴など)、仮設物を用いた小規模なまちの居場所づくり、まちの歴史の広報などのアイデアが挙げられました。</p>

掲載順序は時系列順としています。

まちづくり会議及びまちづくりシンポジウムの詳細については「添付資料1」参照。

² 歩道などに設置された誰でも利用できる椅子や机のことです。

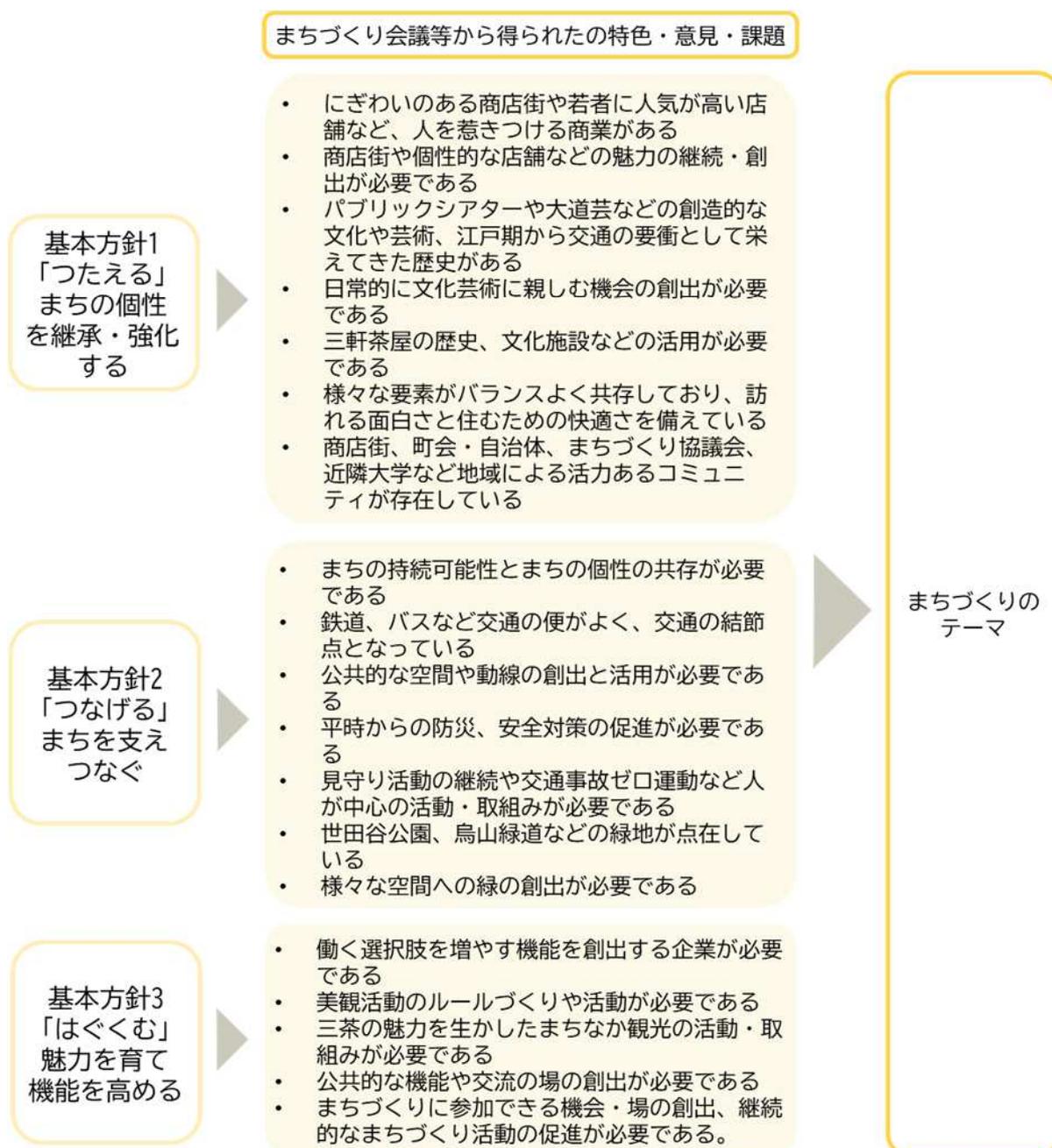
³ 道路の信号や標識をなるべく撤去して空間デザインに配慮し、最低限の交通ルールと人々のコミュニケーションによって歩行者と車の共存空間に再構築するというものです。これは、従来、信号や標識を守っていれば安全だと考えられていた道路が、逆に安全でなくなったと感じることで、ドライバーが速度抑制を図り、結果的に安全になる、という論理です。速度の抑制など交通安全性が向上したり、オープンカフェやイベントが行われることで魅力的な空間が創出されるという効果が期待できます。

⁴ 道路の交通の流れを円滑化することを目的に、道路の区間や車線を対象に、条件を満たした車両にのみ通行を認める車種別通行規制などの方策により、当該道路区間の利用状況を能動的にコントロールする交通運用技術のことです。

2.2.2 みんなの意見を分類したまちづくりのテーマ

まちづくり会議等で得られた意見等を基に、まちづくり検討委員会を通して、専門的な視点や意見も踏まえながら、現在のまちの特色や課題などを分析し、基本方針で挙げられていた3つの方針に整理しました。今回の計画では3つの基本方針を組み合わせながら、より具体的な未来像を描いていくために、まちづくり会議等から得られた特色・意見・課題をさらにキーワード化するとともに、三軒茶屋駅周辺まちづくりのテーマを設定していきます。(図表 2.2.2 参照)

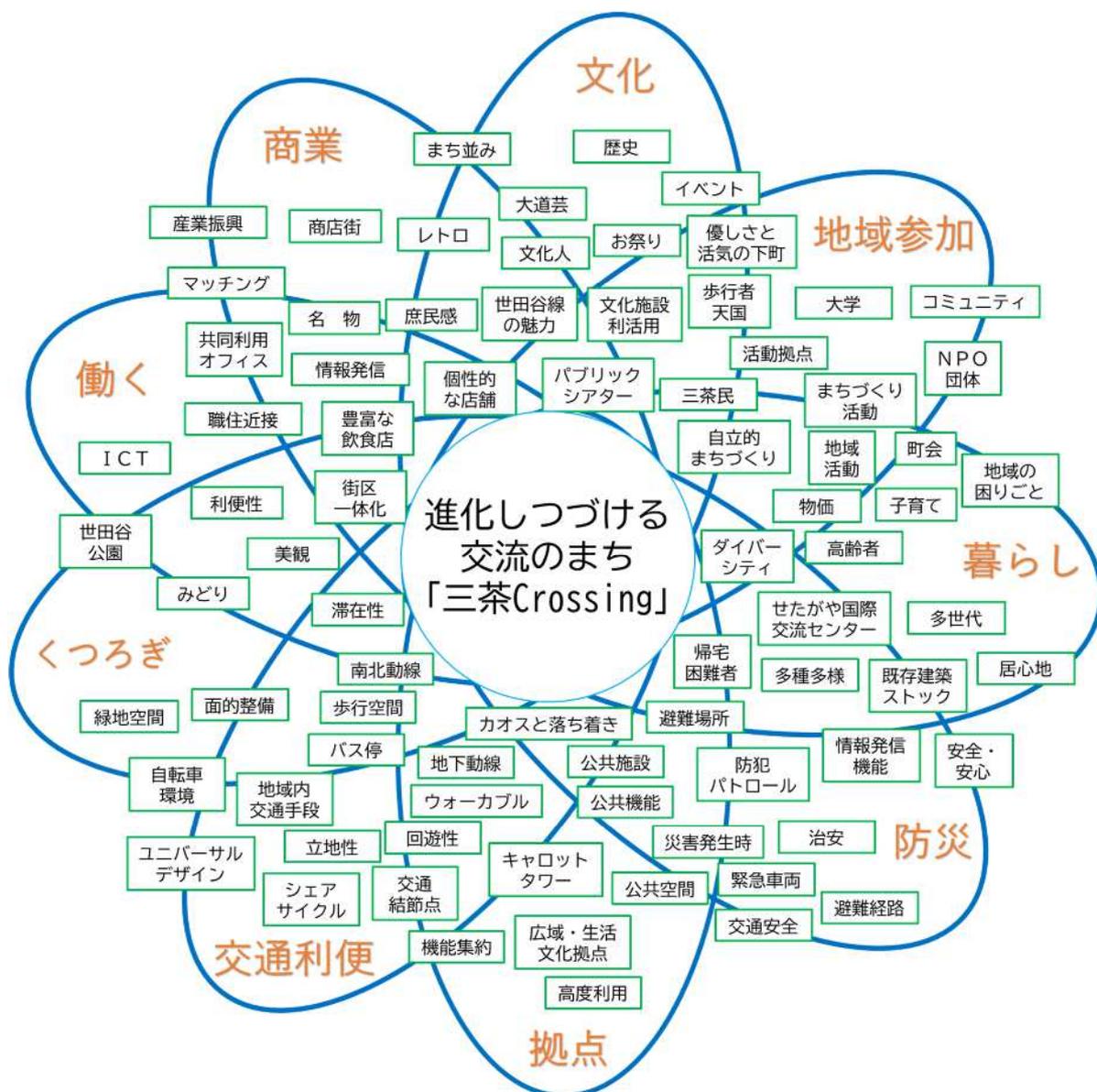
図表 2.2.2 まちづくり会議等から得られたの特色・意見・課題



2.2.3 みんなの言葉とまちづくりのテーマ

2.1 節から 2.2.2 項までに整理した、まちづくり会議及びまちづくりシンポジウムから得られた 947 個の意見やアイデア、まちづくり検討委員会からの意見などは、みなさんが、普段から感じている三軒茶屋駅周辺のまちを表現する言葉になります。それぞれの言葉からは、まちが持つ魅力や抱えている課題などを読み取ることができ、身近な日常生活で感じられるものや都市経営の視点にあたるものなど、様々な人が、三軒茶屋駅周辺を多種多様に表現していることがわかります。それぞれの表現をまちづくりのテーマに整理したものが図表 2.2.3 となります。この「みんなが考えるまちの言語化イメージ」からまちづくりのテーマとして、「商業」、「文化」、「働き方」、「拠点性」、「地域参加」、「暮らし」、「交通利便性」、「防災」の 9 つに分類しました。

図表 2.2.3 みんなが考えるまちの言語化イメージ



2.3 みんなの思いから導き出した9つの未来像

多様な主体が共有できる未来像を設定するために、2.2節で分類したまちづくりのテーマに沿って、まちづくり会議などで得られた意見から9つの未来像を導き出しました。(図表 2.3.1 参照)

図表 2.3.1 未来像

まちづくりのテーマ	未来像
商業	1. 個性豊かな店が通りを彩るまち
文化	2. 歴史を継承しアートを生み出すまち
働き方	3. 暮らしの近くに「働く」があるまち
拠点性	4. 拠点性を生かして人々の活動を支えるまち
地域参加	5. 誰もがまちづくりに関われるまち
暮らし	6. 暮らしを通して様々な関係性が生まれるまち
くつろぎ	7. くつろぎの空間が育まれるまち
交通利便性	8. 誰でも気軽に出かけられるまち
防災	9. 災害に強く、安全・安心のあるまち

2.4 基本方針の方針・方策と9つの未来像の繋がり

基本方針で示された方針・方策と9つの未来像の関係は、各々が役割を持ちつつも、交わるように関係しているため、主に繋がりが強いものを可視化しました。(図表 2.4.1 参照)

図表 2.4.1 方策と未来像の主な繋がり

基本方針		三茶のミライ								
方針	方策	9つの未来像								
		1 個性豊かな 店が通りを 彩るまち	2 歴史を継承 しアートを 生み出すま ち	3 暮らしの近 くに「働 く」がある まち	4 拠点性を活 かして人々 の活動を支 えるまち	5 誰もがまち づくりに関 われるまち	6 暮らしを通 して様々な 関係性が生 まれるま ち	7 くつろぎの 空間が育ま れるまち	8 誰でも気軽 に出かけら れるまち	9 災害に強く、 安全・安心 のまち
1 つたえる	1-① 共存・MIXを維持する	○					○			
	1-② 界わい文化を継承する	○	○							
	1-③ コミュニティを維持し強化する					○	○			○
2 つなげる	2-① シームレスな交通結節点を形成する								○	
	2-② 出会いと交流の空間を創出する				○			○	○	
	2-③ 災害に備え安全・安心と支え合いを育む									○
3 はぐくむ	3-① 「暮らす」と「働く」を両立する			○		○				
	3-② 人を呼び込む魅力をつくる		○		○					
	3-③ まちの機能をバランスよく高める			○				○		

第3章. 9つの未来像と取組み～みんなでつくる「未来」～

3.1 9つの未来像と取組みの体系図

基本方針で示したまちのビジョン、方針・方策、2.2節で分類したまちづくりのテーマ、みんなで思い描く未来像、取組みの繋がりを体系的に整理しました。(図表 3.1.1 参照)

図表 3.1.1 9の未来像と取組みの体系図



3.2 未来像の概要

「みんな」で導き出した 9 つの未来像について、まちのイメージをより具体的に持っていただくため、未来像が実現した際のまちのイメージを言葉で整理しました（図表 3.2.1 参照）。また、より多くの人々が三軒茶屋駅周辺まちづくりに興味を持ち、次の行動を起こすきっかけとなるよう、未来像を実現するための取組みを踏まえたわくわくドキドキする未来像のイラストを、次節に整理しました。

図表 3.2.1 未来像と未来像が実現した際のまちのイメージ

未来像	未来像が実現した際のまちのイメージ
1. 個性豊かな店が通りを彩るまち	個性豊かな店舗が通りを彩り、界わい性を育てている。様々な事業者や商店等が連携することによって新たな魅力を生み、まちの活気が継続している。
2. 歴史を継承しアートを生み出すまち	次世代に誇れるまちの歴史や文化が継承され、その魅力が世界中に発信されている。文化施設を社会基盤として支えていくことで、作り手が集う場所が用意されて新たなアートや文化が育まれ、まち全体がアートや文化であふれている。
3. 暮らしの近くに「働く」があるまち	暮らしの近くで様々な働き方ができる環境があり、そうした場所に人が集まり、活気づいている。起業・創業への後押しが、人々を呼び込み、新たなチャンスが生まれている。
4. 拠点性を生かして人々の活動を支えるまち	古くからの街道の分岐点であることや公共交通が充実している利便性を活かし、公共サービスを始めとした拠点ならではの機能が集約されることで拠点性が高まり、様々な人々の活発な活動を支えている。
5. 誰もがまちづくりに関わられるまち	まちにいる人々が主体的にまちづくりに参加し、まちを育てていける仕組みがあり、始める、支える、賛同する等、様々な形でまちづくりに関わられる機会が提供されている。
6. 暮らしを通して様々な関係性が生まれるまち	多様な暮らしが重なり合う中で、助け・支え合い、相互理解を深めながら、お互いを尊重し合う関係性が生まれている。こうした包容力が地域内外でのさらなる交流を生み出している。

未来像	未来像が実現した際のまちのイメージ
7. くつろぎの空間が育まれるまち	<p>まちなかに広がる公共的空間が居心地の良い場所を生み、人々とまちを繋いでいる。駅周辺は清潔感にあふれ、まち並みとみどりが調和し、人々の愛着心を育んでいる。</p>
8. 誰でも気軽に出かけられるまち	<p>地上や地下に広がる複層的なまちなかを行き来できる等、誰もが行きたいところに安心して移動ができ、まち全体が繋がっている。公共交通や自転車、新たなモビリティ等の様々な移動サービスが連携し、利用や乗り換えが快適になっている。</p>
9. 災害に強く、安全・安心のあるまち	<p>まちに関わる多様な人々が連携できる、共助による防災、防犯及び緊急時に対する体制が整っている。建物の不燃化、耐震化、防災空間の充実等により、防災性が向上している。</p>

3.3 未来像実現のための取組み

3.3.1 取組みの考え方

未来像の実現に向けて、まずはまちづくりの担い手である「みんな」ができることから取組みを始め、一つひとつの取組みを継続し、積み上げていくことが大切です。具体的な取組みは、取組む主体によって様々なものが考えられます。まちづくり会議やまちづくりシンポジウムでは、まちの「みんな」から、図表 2.2.1 や図表 2.2.2 に示すような様々なアイデアが出てきました。

こうしたアイデアを基に、基本方針で例示された取組みや区の施策を踏まえ、未来像を実現するための取組みとして設定しました（図表 2.1.1 参照）。また、その取組みごとに、取組む主体（期待できる主体や既に実施している主体）及び今後取組みとなる可能性のあるアイデアを整理し、それぞれの考え方を図表 3.3.1 に示しました。

図表 3.3.1 取組みの検討項目と考え方

検討項目	考え方
未来像を実現するための取組み	「三茶のミライ」がまちづくり活動を行う「みんなの計画」であるという基本理念に基づき、三軒茶屋駅周辺まちづくりに関わる人が幅広い視点からやりたいこと・やってほしいこと、専門家の視点からやるべきと考えること、行政の視点からやるべきと考えていることを取りまとめます。
新しい取組みとなる可能性のあるアイデア	9 つの未来像の実現を想像したり、官・民に関わらず、新しい取組みとなる可能性のあるアイデアを、まちづくり会議で上げられた意見などから整理します。
取組む主体（期待できる主体、既に実施している主体）	住む人：主に対象区域に住む区民や町会などの区民組織 学ぶ人：主に勉学のために対象区域を訪れる人 資産を持つ人：居住地を問わず、主に対象区域内で土地と建物、またはそのどちらかを所有する個人や組織 働く人：対象区域内で働く個人事業主、法人など 支援する組織：対象区域内で住む人、学ぶ人、資産を持つ人、働く人の活動を支える団体 行政：世田谷区、東京都、国土交通省など

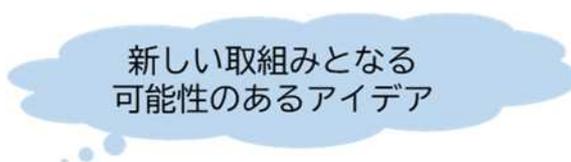
次項で示す9つの未来像を実現するための取組みは、「三茶のミライ」の策定にあたって、検討・整理した内容です。「みんな」の行動のきっかけとなるよう、可能な範囲で具体的に記載していますが、制限を設けるものではありません。未来像の実現に向けて、記載と異なる取組みの実施、既存の取組みの拡張、新たな主体の参画など、「みんな」がさらに必要だと考える取組みや行動が、新しい取組みとなる可能性のあるアイデアも活かしながら生まれてくることも期待しています。

なお、前節で示した考え方に基づき取組みを整理し、取組みごとに活用可能な既存の支援施策メニューと相談先（区の関係所管）を加えて、「添付資料2」に取組み一覧表としてまとめました。

未来像を実現するための取組みの見方



未来像を実現するための取組みです。取組み名称とともに、主な主体をアイコンで示しています。



新しい取組みとなる可能性のあるアイデアです。



取組む主体をアイコン化し、それぞれの取組みの中に記載しています。

以降の図は、デザインを施し、取組みシーンが分かるイラストを追加します。

3.3.2 9つの未来像を実現するための取組み

1. 個性豊かな店が 通りを彩るまち

取組み

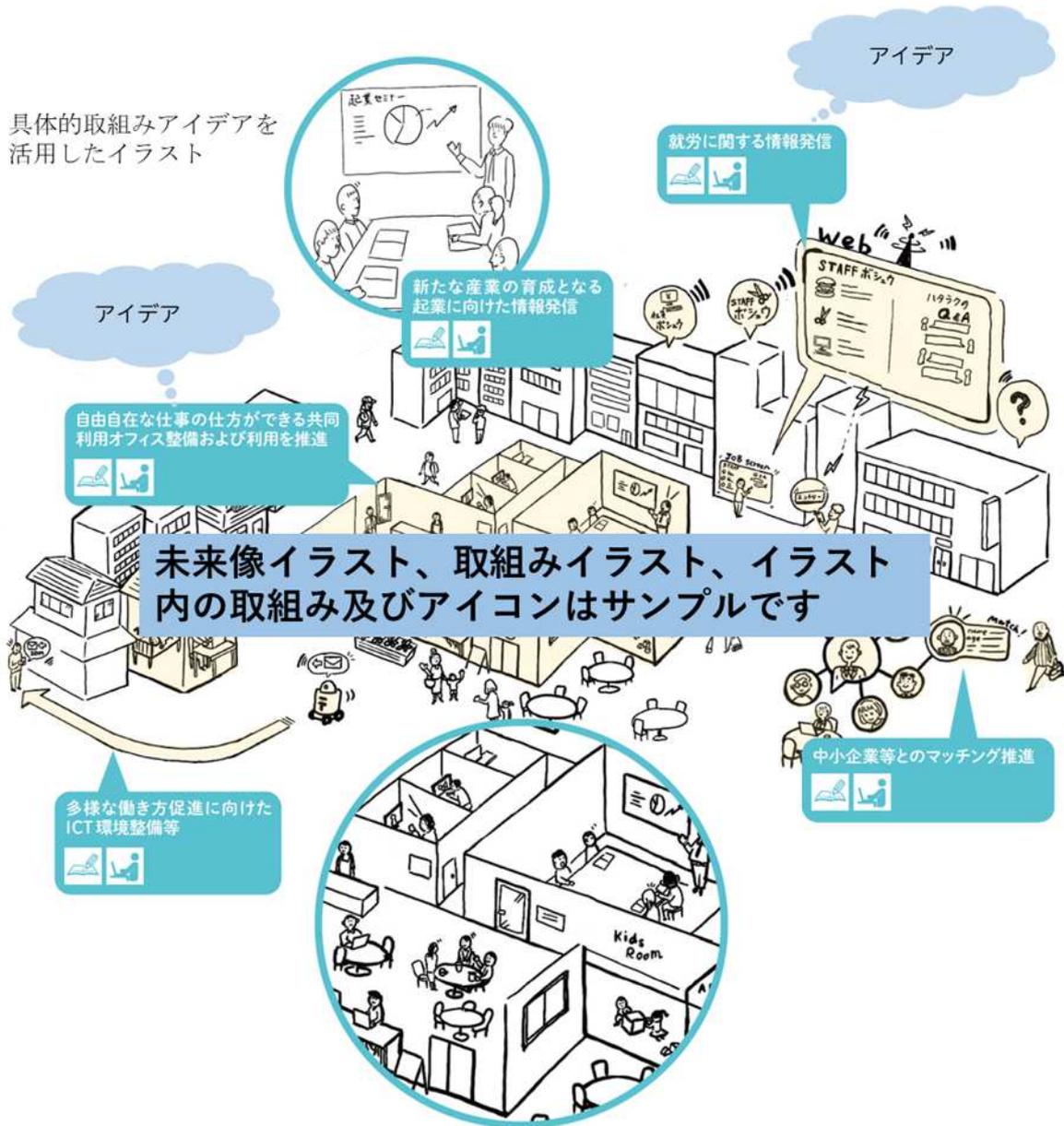
アイデア

【実施主体の凡例】



個性豊かな店舗が通りを彩り、界わい性を育んでいる。様々な事業者や商店等が連携することによって新たな魅力を生み、まちの活気が継続している。

具体的取組みアイデアを
活用したイラスト



FUTURE OF SANGHA

1. 個性豊かな店が 通りを彩るまち

取組み

アイデア

【実施主体の凡例】



1. SNS、紙媒体等様々な手法を用いた魅力的な店舗や街並み等に関する情報発信

2. 様々な事業者の連携による新たな名物や魅力の創出

3. 地域活性化に向けた、多世代が楽しめるイベント実施

4. 空き家や店舗シェアリングの制度を活用した創業・個店が増加する仕組み構築

5. 商店街活性化を図るための支援

6. (他の取組みとの統合により削除)

7. 中小事業者の経営継続のための産業振興

8. 魅力あるまち並み等を継承するためのまちづくりルール構築

9. 民間企業や金融機関、産業支援機関、大学等と連携した創業推進

10. 新たなビジネスモデルの開発など、事業所の経営基盤強化

この頁の取組みイラスト、取組み、アイコンは、今後前頁のイラスト内に配置されます

2. 歴史を継承し アートを生み出すまち

取組み

【実施主体の凡例】



アイデア

次世代に誇れるまちの歴史や文化が継承され、その魅力が世界中に発信されている。文化施設を社会基盤として支えていくことで、作り手が集う場所が用意されて、新たなアートや文化が育まれ、まち全体がアートや文化であふれている。

具体的取組みアイデアを
活用したイラスト



アイ **未来像イラスト、取組みイラスト、イラスト内の取組み及びアイコンはサンプルです**

以下の取組みイラスト、取組み、アイコンは、今後上記イラスト内に配置されます

1. 歴史・文化・芸術の継承に資する情報発信

2. 文化施設の利活用ができる仕組み構築

3. 芸術作品の展示やイベント等の事業実施や支援

3. 暮らしの近くに「働く」があるまち

取組み

【実施主体の凡例】



アイデア

暮らしの近くで様々な働き方ができる環境があり、そうした場所に人が集まり、活気づいている。起業・創業への後押しが、人々を呼び込み、新たなビジネスチャンスが生まれている。

具体的取組みアイデアを活用したイラスト



FUTURE OF SANGHA

4. 拠点性を活かして 人々の活動を支えるまち

取組み

アイデア

【実施主体の凡例】



古くからの街道の分岐点であることや公共交通が充実している利便性を活かし、公共サービスを始めた拠点ならではの機能が集約されることで拠点性が高まり、様々な人々の活発な活動を支えている。

具体的取組みアイデアを
活用したイラスト



未来像イラスト、取組みイラスト、イラスト
内の取組み及びアイコンはサンプルです

以下の取組みイラスト、取組み、アイコンは、今後上記イラスト内に配置されます

1. 公共施設及び公共的空間の活用に向けた仕組み構築

2. 市街地の再構築として高度利用の誘導による拠点の創出と商業・業務・滞在施設等機能の集積

3. 交通利便性向上を目指した公共交通等の乗換え機能集約の整備

4. 上のイラストと共に追加予定 公共施設機能の複合化、多機能化

5. 誰もがまちづくりに 関われるまち

取組み

アイデア

【実施主体の凡例】



まちにいる人々が主体的にまちづくりに参加し、まちを育てていける仕組みがあり、始める、支える、賛同する等、様々な形でまちづくりに関われる機会が提供されている。

具体的取組みアイデアを
活用したイラスト



アイ **未来像イラスト、取組みイラスト、イラスト
内の取組み及びアイコンはサンプルです**

自由自在な仕事の仕方ができる共同
利用オフィス整備および利用を推進

以下の取組みイラスト、取組み、アイコンは、今後上記イラスト
内に配置されます

1. NPO団体等と連携したまちづくり活動支援

2. コミュニティ活動ができる場の情報提供

3. 多世代の人が主体的にまちづくりに参加するための啓発活動推進および議論の場創出

4. 上のイラストと共に追加予定
自立的なまちづくり推進体制および取組み参加推進の仕組み構築

5. 上のイラストと共に追加予定
まちづくりに向けた区民参加の仕組み構築

6. 暮らしを通して様々な 関係性が生まれるまち

取組み

アイデア

【実施主体の凡例】



多様な暮らしが重なり合う中で、助け・支え合い、相互理解を深めながら、お互いを尊重し合う関係性が生まれている。こうした包容力が地域内外でのさらなる交流を生み出している。

具体的取組みアイデアを活用したイラスト



以下の取組みイラスト、取組み、アイコンは、今後上記イラスト内に配置されます

1. 地域の困りごとと解決方法をマッチングさせることを目指したイベント実施

2. 地域活動などに参加しやすい環境の整備

3. せたがや国際交流センターを拠点とした多文化共生の推進

4. 上のイラストと共に追加予定
多種多様な人々へのまちの魅力発信

5. 上のイラストと共に追加予定
パブリックスペースを活用した地域活動の推進

6. 既存建築ストックと希望者とのマッチング推進

6. 暮らしを通して様々な 関係性が生まれるまち

取組み

アイデア

【実施主体の凡例】



住む人



学ぶ人



資産
持つ人



働く人



支援する
組織



行政



7.



団体の分野や世代を超えた
交流を促進させるイベント
実施

この頁の取組みイラスト、取組み、アイコン
は、今後前頁のイラスト内に配置されます

7. くつろぎの空間が 育まれるまち

取組み

アイデア

【実施主体の凡例】



まちなかに広がる公共的空間が居心地の良い場所を生み、人々とまちを繋いでいる。駅周辺は清潔感にあふれ、まち並みとみどりが調和し、人々の愛着心を育んでいる。

具体的取組みアイデアを
活用したイラスト



アイ **未来像イラスト、取組みイラスト、イラスト
内の取組み及びアイコンはサンプルです**

以下の取組みイラスト、取組み、アイコンは、今後上記イラスト内に配置されます

1. 滞在性を向上させる公共的な空間の利活用の推進

2. 街区一体化等による面的整備等により、まちづくり活動もできる面的整備等に合わせた広場空間整備

3. 定期的な美化活動および路上喫煙禁止の啓発活動の推進

4. 上のイラストと共に追加予定
喫煙場所の整備及び支援

5. 上のイラストと共に追加予定
憩いとなるみどりを推進するための仕組み構築

6. 質、量ともに豊かな地域に求められる緑地空間整備

7. くつろぎの空間が育まれるまち

取組み

アイデア

【実施主体の凡例】



住む人



学ぶ人



資産
持つ人



働く人



支援する
組織



行政



7.

商業空間の利活用により回遊性を高めるための休憩場所等整備

この頁の取組みイラスト、取組み、アイコンは、今後前頁のイラスト内に配置されます



8. 誰でも気軽に 出かけられるまち

取組み

アイデア

【実施主体の凡例】



地上や地下に広がる複層的なまちなかを行き来できる等、誰もが行きたいところに安心して移動ができ、まち全体が繋がっている。公共交通や自転車、新たなモビリティ等の様々な移動サービスが連携し、利用や乗り換えが快適になっている。

具体的取組みアイデアを活用したイラスト



アイ **未来像イラスト、取組みイラスト、イラスト内の取組み及びアイコンはサンプルです**

以下の取組みイラスト、取組み、アイコンは、今後上記イラスト内に配置されます



1. 移動の利便性向上を目指したコミュニティバス等の地域内交通手段整備



2. (他の取組みとの統合により削除)



3. 南北方向の分断回避を目指した道路横断機能の整備



4. 上のイラストと共に追加予定 (他の取組みとの統合により削除)



5. 上のイラストと共に追加予定 シェアサイクル活用等による自転車利用環境の改善



6. 通行環境の向上による交通事故ゼロを目指した歩行空間整備



8. 誰でも気軽に 出かけられるまち

取組み

アイデア

【実施主体の凡例】



住む人



学ぶ人



資産
持つ人



働く人



支援する
組織



行政



7.



住宅地の交通安全に向けた
自転車通行空間整備

この頁の取組みイラスト、取組み、アイコン
は、今後前頁のイラスト内に配置されます

9. 災害に強く、安全・安心のまち

取組み

アイデア

【実施主体の凡例】



まちに関わる多様な人々が連携できる共助による防災、防犯及び緊急時に対する体制が整っている。建物の不燃化、耐震化、防災空間の充実等により、防災性が向上している。

具体的取組みアイデアを活用したイラスト



アイ **未来像イラスト、取組みイラスト、イラスト内の取組み及びアイコンはサンプルです**

以下の取組みイラスト、取組み、アイコンは、今後上記イラスト内に配置されます

1. 駅前における帰宅困難者等の滞留空間整備

2. 災害発生時の組織間の連絡・対応体制構築

3. 防災に対する情報発信

4. 上のイラストと共に追加予定
災害対応力向上を目指した防災訓練の推進

5. 上のイラストと共に追加予定
防犯パトロール活動の継続体制構築と防犯体制を担う人材育成

6. 世田谷ボランティア協会と連携した災害時のボランティア人材の確保



9. 災害に強く、安全・安心のまち

取組み

アイデア

【実施主体の凡例】



7.

建替え・区画整理等を契機とした建築物不燃化による延焼遮断帯及び特定緊急輸送道路沿道建築物の耐震化推進



8.

まちの治安維持・向上を目指した仕組み構築



9.

緊急車両進入困難地域の改善に向けた道路整備



10.

(他の取組みとの統合により削除)

この頁の取組みイラスト、取組み、アイコンは、今後前頁のイラスト内に配置されます

3.3.3 9つの未来像実現に結び付くまちの空間デザイン

まちづくり会議やまちづくりシンポジウムを通して、南北移動の円滑化やパブリックスペースの必要性などまちづくりに関する意見が多数述べられており、「2.2.2 みんなの意見を分類したまちづくりのテーマ」のとおり、まちづくりに関する課題を抱えていることがわかりました。

世田谷区の東の玄関口である三軒茶屋駅では、乗降人員が多い中、地上と地下をつなぐエレベーター等が少なく、回遊できるバリアフリー動線が十分確保されていません。こうした問題に対応するために、地下空間の活用や拡充などに取り組むことで、スムーズな乗り換え、回遊性の向上、南北の移動円滑化などを実現していくことが望まれています。また、三軒茶屋駅周辺では道路が狭小で、敷地が細分化された中に、老朽化した店舗が密集する地区も見受けられるなど、防災性の向上も課題となっており、建物の耐震化や不燃化も重要な取組みの一つです。

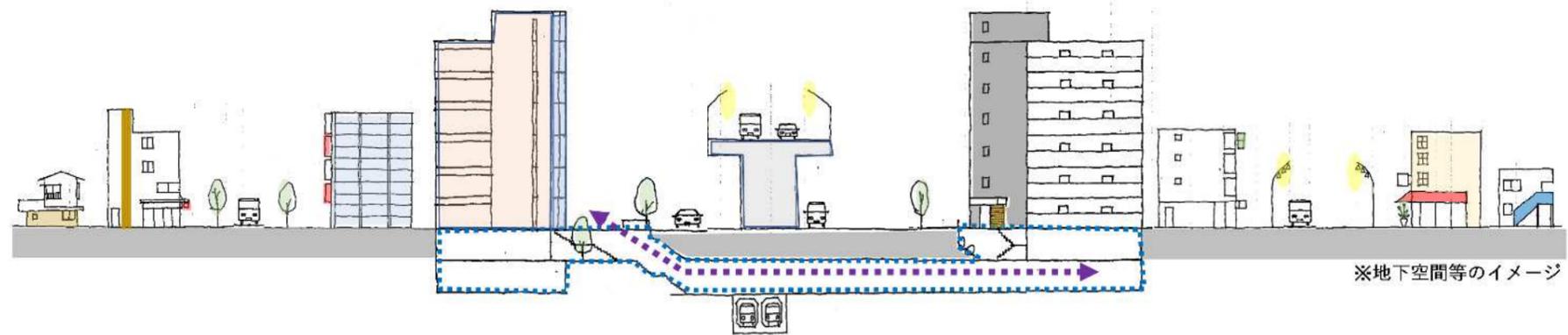
一方、にぎわいのある商店街や、個性豊かな店舗の集積がまちの魅力の一つであるという意見もあります。こうしたことから、移動円滑化や防災性向上だけでなく、まちの個性や魅力の継承・強化につながる土地利用の誘導や店舗の誘致、また、日常的に憩いや交流を生み出すパブリックスペースの創出も必要です。

こうした課題には、鉄道や道路、周辺の建物など、多種多様な要素が関わり合うものや、まちづくりのルールを作って誘導を図っていくものなど、様々な観点があることを踏まえ、「9つの未来像実現に結び付くまちの空間デザイン」として図表3.3.2に構成要素を示し、多様な主体と連携してまちづくりを推進していきます。（図表3.3.3参照）

図表 3.3.2 まちの空間デザインの構成要素

9つの未来像	都市機能集積、魅力の継承・強化、パブリックスペースの創出	商業・業務、サービス、文化・交流などの複合的な機能集積の促進や、憩い・交流の場や防災空間など多様な目的に利用可能となるパブリックスペースの創出を再開発事業などにより面的に進め、新しい働き方や文化・観光などの新たな魅力を育て機能を高めていくとともに、まちの防災性向上を図っていきます。
	まちの個性や魅力の継承・強化	商店街を中心とした面的なにぎわいを継承し・強化するため、商業・業務、サービス、文化及び交流など利便性の高い駅前機能を、バランスよく高め、周囲の住宅地と調和を図りつつ、通りなどの特徴を活かした身近な商業地として魅力を向上していきます。
	地下空間の活用・拡充（回遊機能の向上）	交通結節点の形成と多様な空間を創出するため、三軒茶屋駅や周辺の施設更新にあわせて、駅を基点とした歩行者広場など地下空間の活用を拡げ、駅利用の充実を図り、回遊機能の向上や南北移動の円滑化を図っていきます。
	玉川通り沿道の活力・防災性の向上	後背の住環境と調和を図りつつ、商業・業務、サービス施設等の誘導、歩行者の滞留空間の確保及び南北移動の円滑化を進めていきます。また、沿道建築物の不燃化・耐震化を促進し、まちの防災性の向上を図っていきます。
	回遊空間の充実	誰もが快適にまちを歩き楽しめるように、歩行者空間の充実等を行うとともに、まちを楽しく歩けるソフト事業を実施することで、まちなかや魅力的な店舗、公園等の地域資源へつなげる回遊性を持ったウォーカブルなまちづくりを進めていきます。

図表 3.3.3 9つの未来像実現に結び付くまちの空間デザイン



コラム

コロナにより起きているまちづくりの方向性への変化や、文化に対して起きていることを掲載することを予定

記載するタイトル・作成者案

アートとコロナ：曾田委員

これからの働き方とコロナ：中島委員、吉田委員

第4章. 今後の展望～みんなの思いをまちづくりに～

4.1 まちの未来像実現に向けたまちづくり

4.1.1 参加と協働による持続可能なまちづくり

第3章で示した未来像の実現に向け、これまでの取組みに加え、先進的な取組みや新たな試みに、多様な主体が互いに関わりあって挑戦していく必要があります。

このような、たゆまぬ取組みや新たな試みは、まちの魅力を生み出し、地域価値を向上させ、人の輪をさらに広げ、持続可能な都市経営の原動力となります。

さらにこの力を大きくしていくためには、多様な主体が共に理解し合い、知恵を出し合い、協力しながら様々な立場で役割を担って、「協働」することが重要になります。また、まちづくりの計画づくりや取組みに自らの意見を反映させ、主体的に取り組んでいける参加の場を増やしていく必要もあります。加えて、今般のコロナ危機を乗り越えていくサステナブル・リカバリー⁵の考えにおいては、人々の意識や行動の変化に適応したまちづくりが求められており、様々な主体が、これまでに無かった価値を生み出すための新たな関係性を構築していくことが欠かせません。

本区においては、こうした協働の場や参加機会の提供、そして新たな関係性の構築にあたっては、地区単位での取組みを支援できる仕組みづくりの必要性が認識されています。本区の広域・生活文化拠点に位置付けている二子玉川駅周辺地区においては、「二子玉川エリアマネジメント⁶」や下北沢駅周辺地区では、小田急線上部周辺を対象とした「北沢PR戦略会議⁷」などがさらなるまちの魅力向上を目指して既に活動を始めています。三軒茶屋駅周辺でも、まちづくりの担い手が多数存在し、新たな連携を生み出せる仕組みを構築し、「みんな」で進めていく参加と協働のまちづくりによって、まちの魅力のさらなる向上に取り組んでいかなければなりません。

⁵ コロナ危機で縮小した経済を回復していく過程において、持続可能な社会へ移行していくことを目指す（持続可能な回復）という、アフターコロナの経済回復に関して注目されている考え方です。

⁶ 「二子玉川エリアマネジメント」は、二子玉川東地区再開発事業を契機とする二子玉川地区における持続可能なまちづくり活動を進めるエリアマネジメント団体である。街の価値を高め、人々の幸せを育むことを目的に、玉川町会、東急（株）、東神開発（株）により平成27年に発足した。令和2年に都市再生推進法人に指定され、これまで進めている多摩川の水辺空間利活用・演出、公益還元、街づくり支援・協力等の活動に加えて、都市再生整備計画に基づく河川敷地占用許可制度を活用した事業及び屋外広告物事業等に取り組んでいる。事業等で得られた収益は、一定のルールのもとまちづくりに還元していく自立的で持続性のあるまちづくりを進めている。

⁷ 「北沢PR戦略会議」は、小田急線の上部空間に整備を進める各施設の活用や周辺部を含む「まちの魅力」を高める取組みを検討し、実践する場として世田谷区の支援のもと、平成28年度から開催している。誰もが自由に参加できるテーマ別の9つの部会活動を中心に、各部会の活動報告や意見交換の場として全体会議を開催するとともに、活動報告会では、その成果を地域に向けて発信している。

4.1.2 まちづくりを推進するための仕組みづくり

協働による持続可能なまちづくりを推進するためには、未来像実現に向けた取り組みを積み重ね、まちづくりの担い手同士が連携することが重要であり、恒常的な新規活動者の参画も必要です。これら2つの実現にあたり、2.2.1節に示した「まちづくり会議」を発展させ、まちづくりの担い手同士を繋げる仕組みを形成していくことを目指します。

このまちづくりの担い手同士を繋ぐ仕組み(まちづくり会議)は、様々なまちづくりの担い手の出会いや知見の共有、人材育成、情報共有・発信といった役割を果たしていきます。

図表 4.1.1 まちづくりの担い手同士を繋ぐ仕組みの形成



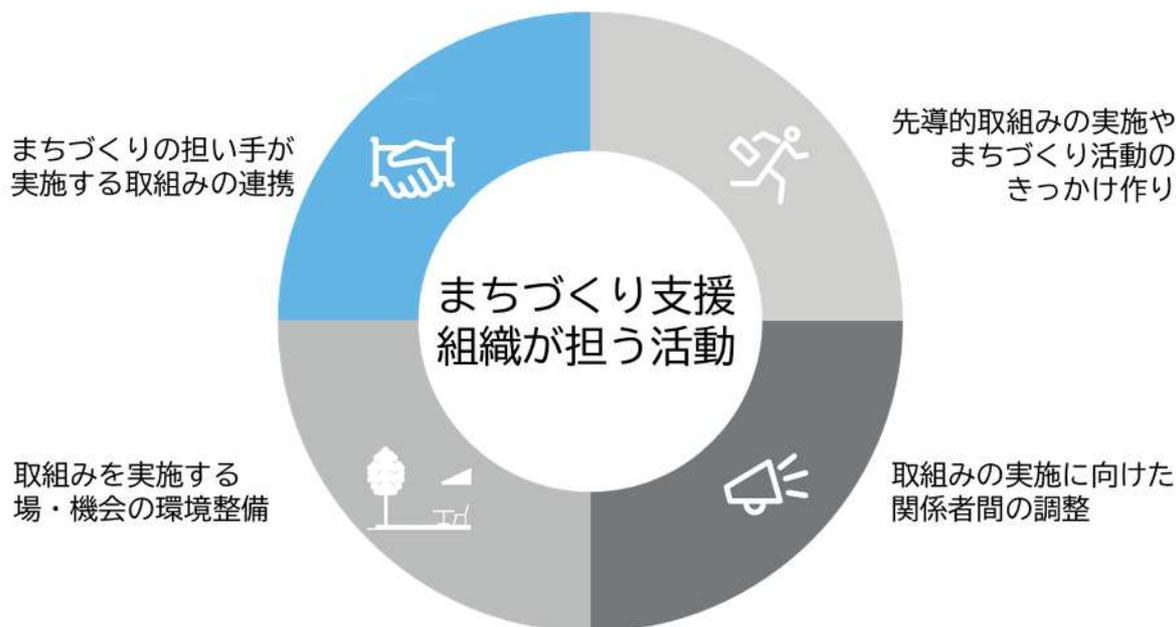
4.1.3 まちづくりを推進するための仕組みを支える組織について

4.1.2 節に示したまちづくりを推進するための仕組みづくりが機能していくためには、まちづくりにかかわる様々な人や組織、団体との多様な関係性のもと、関係者間の連携・調整を行い、活動を支援していくために、行政主体ではなく、中立的な立場の「まちづくり支援組織」がその運営を担うことが、望ましいと考えます。

三軒茶屋駅周辺においては、町会、商店街やNPOなど多様なまちづくりの担い手が多数存在していることから、「まちづくりの担い手同士を繋げる仕組み(まちづくり会議)」を介して、それぞれの取組みの価値を高めていく新たな連携が必要です。また、商業地から住宅地まで幅広い土地利用がされている三軒茶屋駅周辺では、地域活動で使用されている公共空間がある一方で、十分に活用できていない空間が存在しています。今後、こうした空間を活用しさらなるまちづくりの推進に向け、まちづくりの担い手が実施する取組みの連携や取組みを実施する場・機会の環境整備も必要と考えます。

さらに、取組みの実施に向けて、行政機関を初めとした関係者間の調整によるまちづくりの円滑な推進も欠かせません。「まちづくり支援組織」では、こうしたニーズに応えるとともに、先導的取組みの実施やまちづくり活動のきっかけ作りを展開し、「まちづくりの担い手」や「世田谷区」とともに、まちづくりの気運を盛り上げ、三軒茶屋駅周辺まちづくりの推進における機能的でオープンな体制の一翼を担っていきます。(図表 4.1.2 参照)

図表 4.1.2 まちづくり支援組織が担うべき活動



4.2 「まちの未来像」実現のためのまちづくりの推進体制

4.2.1 まちづくりの実施主体について

三軒茶屋駅周辺におけるまちづくりの実施主体となる「まちづくりの担い手」、「まちづくり支援組織」、「世田谷区」の位置付けを示します。(図表 4.2.1参照)

図表 4.2.1 三軒茶屋駅周辺におけるまちづくり実施主体ごとの位置づけ

まちづくり 実施主体	位置づけ
まちづくり の担い手	「まちの未来像」実現に向けた各取組みの実施者です。区民や大学関係者、事業者等の個人及び複数人で構成される団体が想定されます。 また、これからまちづくりに参加する可能性がある人々もまちづくりの担い手とします。
まちづくり 支援組織	公共の精神（パブリックマインド）を持ちながら地域と活動を繋ぐ役割を担うとともに、先導的な取組み実施及びまちづくり活動のきっかけを作っていく組織です。
世田谷区	まちづくりの担い手の一員、かつ、公共空間という場の提供などにより様々な取組みが円滑に進むよう、地域を支える役割を担います。

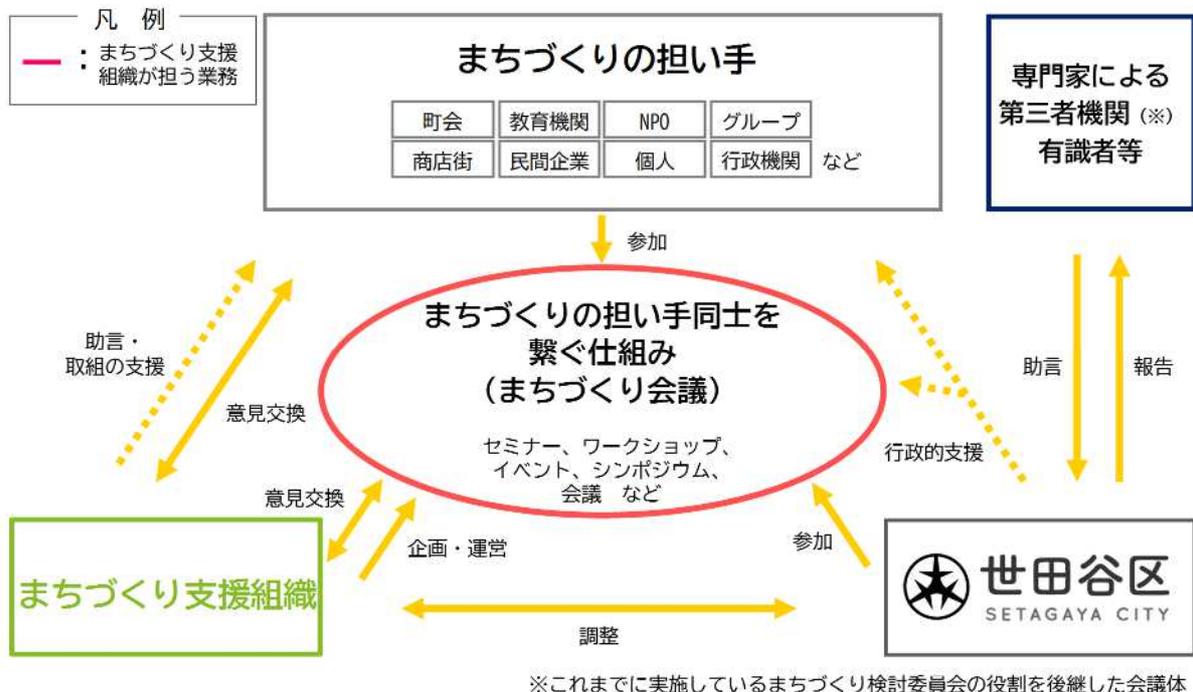
4.2.2 組織の成熟に伴うまちづくり推進体制について

持続可能な協働のまちづくりを推進するためには、「まちづくりの担い手」、「まちづくり支援組織」、「世田谷区」が、互いに関係性を持ちつつも、それぞれの立場や強みを活かしながらまちづくりに参画できる体制が必要です（図表 4.2.2参照）。「まちづくりの担い手」に対し、必要に応じて助言や取組み推進の支援、さらに公的な制度の紹介、関係者との連携や調整などを行いながら、「まちの未来像」の実現に向けて推進していきます。

また、専門家による第三者機関は、「三茶のミライ」検討段階で実施しているまちづくり検討委員会の役割を後継した会議体として、今後の三軒茶屋駅周辺まちづくりに対して助言をしていきます。

三軒茶屋駅周辺では、様々な団体のまちづくり活動があつてこそ、区内外に誇れる魅力が生まれています。今後、未来に向かってまちづくりを進めていく上で、既存団体含め、まちづくり実施主体が「まちづくりの担い手が同士を繋ぐ仕組み（まちづくり会議）」で繋がり、まちづくり活動を展開するための羅針盤である「三茶のミライ」を活用しながら、未来像実現のための取組みを積み重ね、まちのさらなる魅力を向上していきます。

図表 4.2.2 三軒茶屋駅周辺のまちづくりで構築を目指すまちづくり推進体制図



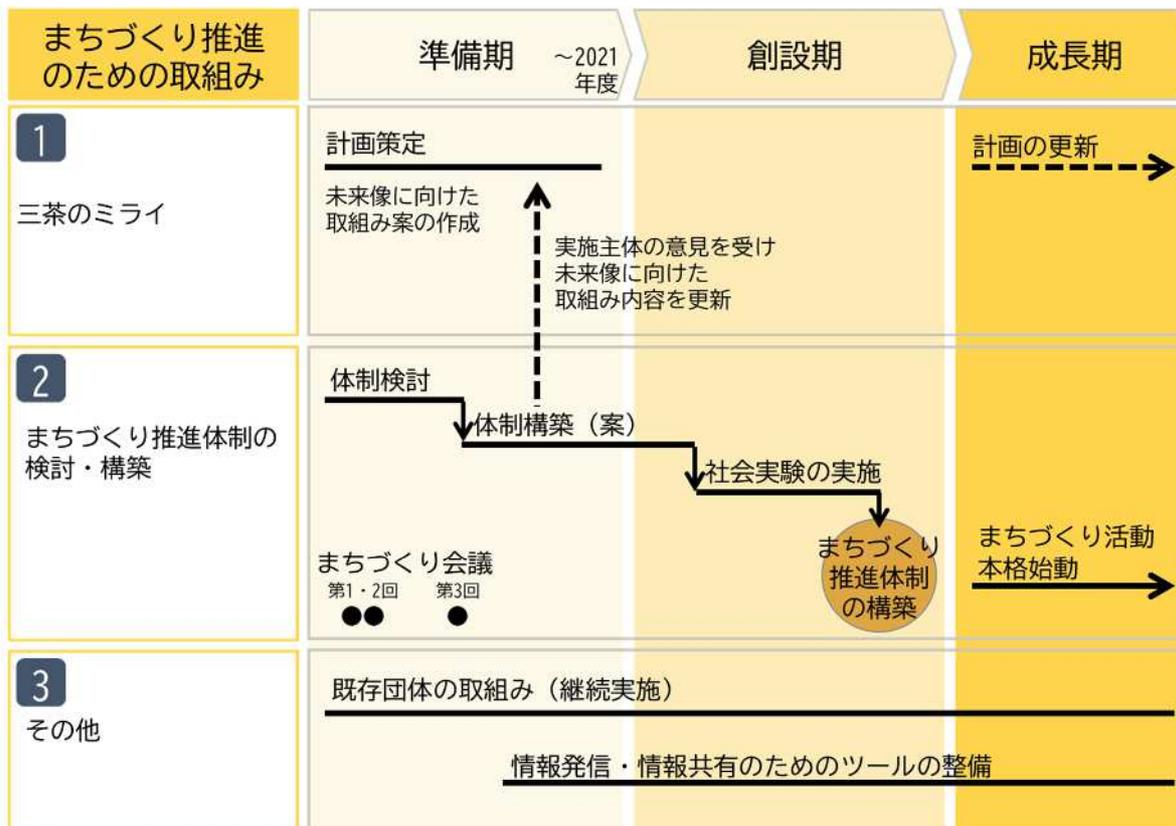
4.3 まちづくり推進体制構築に向けたロードマップ

図表 4.2.2 で示したまちづくり推進体制の構築に向け、様々な主体と信頼関係を築き、徐々に規模を拡大・強化しながら進めていくことから、各々が担うべき役割や関係性は変化していきます。この変化を3つの「準備期」「創設期」「成長期」に分けそれぞれの取組みをロードマップとして整理しました。（図表 4.3.1 参照）

「三茶のミライ」は計画策定後も、まちづくり支援組織の活動内容やまちの変化に応じて内容の更新を行い、継続していくことを想定しています。

また、まちづくりの情報発信や情報共有にも取り組んでいきます。

図表 4.3.1 ロードマップ



「準備期」：これまで取り組んできたまちづくり会議など「三茶のミライ」策定に向けた検討やまちづくり活動者との意見交換を通じて、まちのことを自分事として捉え、まちづくりの気運を醸成してきた期間です。

「創設期」：本区が支援しながら社会実験など実践を通じて、まちづくりの担い手が様々な形でまちづくりに関与できる、まちづくり推進体制構築を目指します。

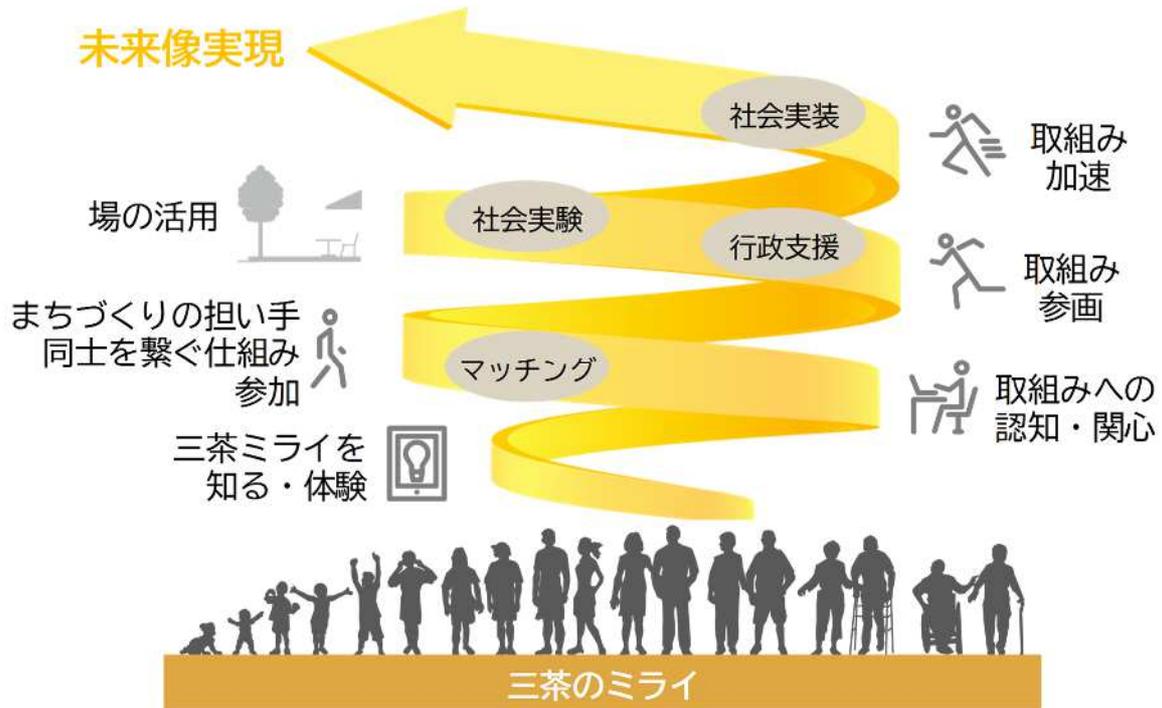
「成長期」：多様な取組みが様々な場所で実施されるとともに、まちづくり支援組織による「まちづくりの担い手同士を繋ぐ仕組み（まちづくり会議）」を通じて、多様な主体が連携しながら既存の仕組みや関係性に捉われな

い自立的なまちづくりが行える体制が整えられ、未来像実現に向け、まちづくりのプラットフォームの社会実装を目指します。

4.4 みんなで取組み未来像実現に向けたイメージ

まちづくりへの取組みについては、既に活動を行っている人、取組みに参画したい人、まだ興味を持っていない人など、状況に応じて様々ですが、「三茶のミライ」が策定され、図表 4.4.1 に示すように、「みんな」がそれぞれにできる取組みに参画し、未来像を実現していくことを目指します。

図表 4.4.1 まちづくりの担い手に期待する今後の行動



発行月：2021年X月XX日

発行者：世田谷区

住 所：東京都世田谷区 4-21-27

電 話：03-5432-XXXX

添付資料1 「三茶のミライ」検討経緯

目次

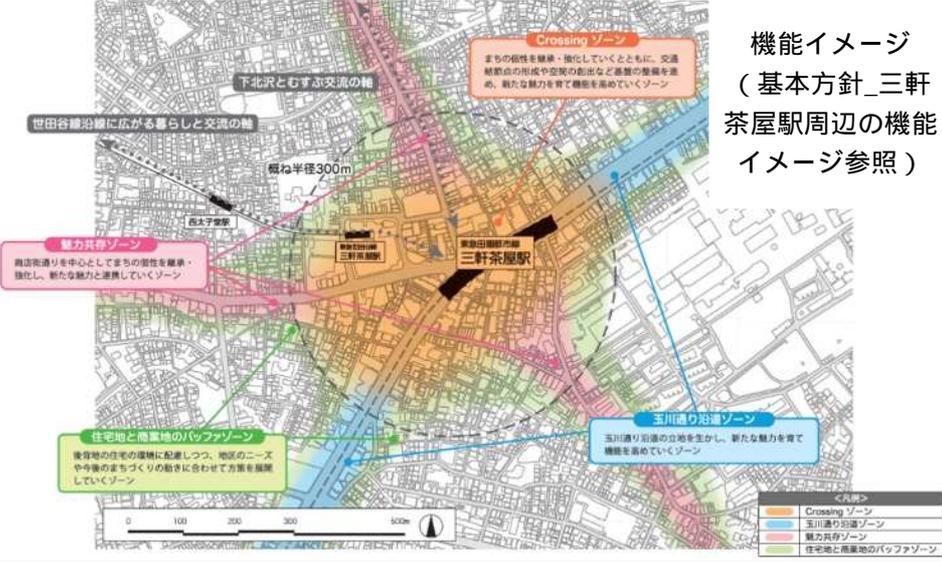
1. 検討経緯	1
①三茶のミライ（三軒茶屋駅周辺まちづくり基本計画）の検討経緯	1
②検討体制	5
2. まちづくり検討委員会	6
①出席者	6
②検討員会要綱	7
③検討委員会議事概要	9
3. まちづくり会議、まちづくりシンポジウム	13
①参加者	13
②まちづくり会議	14
（ア）第1回まちづくり会議（ワークショップ）成果	14
（イ）第2回まちづくり会議（ワークショップ）成果	23
（ウ）ワークショップアンケート結果	34
（エ）第3回まちづくり会議成果	39
③まちづくりシンポジウム	40
（ア）まちづくりシンポジウム結果概要	40
（イ）まちづくりシンポジウムアンケート結果	50
（ウ）グラフィックレコード	55
4. まちづくり会議の成果を分類・整理した流れ	56
5. 区民意見募集	57
①意見募集期間	57
②周知方法	57
③意見提出人数と件数	57
④意見の概要と区の考え方	57
6. 説明会	57
①日時・場所	57
②周知方法	57
③参加者	57
④議事次第	57

添付資料 2-1 取組み一覧

本編で設定した未来像を実現するための取組みについて、それぞれ、具体的な取組みの実施状況、取組む主体（期待できる主体や既に実施している主体）、実施を期待する時期、取組みの実施を期待する場所（対象場所）、活用可能な支援施策メニュー、区の関係所管について、以下の通り考え方を設定しました。

各取組みと具体的な内容については、「添付資料 2-2」に取組み一覧表としてまとめました。

検討項目	考え方
未来像を実現するための取組み	<p>「三茶のミライ」がまちづくり活動を行う「みんなの計画」であるという基本理念に基づき、三軒茶屋駅周辺まちづくりに関わる人が幅広い視点からやりたいこと・やってほしいこと、専門家の視点からやるべきと考えること、行政の視点からやるべきと考えていることを取りまとめます。</p>
取組みの実施状況	<p>各取組みが新規か否かは、実行したいと考えるまちづくりの担い手によって、魅力的かどうか感じ方が異なると考えます。そこで、新規の取組みへ興味を持ち実行することや、既存の取組みへ興味を持ち参画することを期待し、各取組みは、実施状況が分かるよう整理しました。</p> <p>また、既存の取組みについては、参考として実施状況と合わせて現在主に取り組んでいることも整理しました。</p>
取組む主体（期待できる主体、既に実施している主体）	<p>取組みの実施状況によって、ノウハウなど活用できそうな素地を持っている「期待できる主体」と「既に実施している主体」という2つを想定し、以下の6つに大別します。</p> <p>住む人：主に対象区域に住む区民や町会などの区民組織</p> <p>学ぶ人：主に勉学のために対象区域を訪れる人</p> <p>資産を持つ人：居住地を問わず、主に対象区域内で土地と建物、またはそのどちらかを所有する個人や組織</p> <p>働く人：対象区域内で働く個人事業主、法人など</p> <p>支援する組織：対象区域内に住む人、学ぶ人、資産を持つ人、働く人の活動を支える団体</p> <p>行政：世田谷区、東京都、国土交通省など</p>
取組みの実施を期待する時期	<p>「三茶のミライ」策定後、取組む主体が概ね5年以内で取組める可能性があるものは短期、6年以上必要な可能性があるものは長期として考えました。</p> <p>時期はあくまで目安であり、取り組む主体によって実際の期間は変動するものと考えています。</p>

検討項目	考え方
<p>取組みの実施を期待する場所(対象場所)</p>	<p>対象区域において、基本方針では、三軒茶屋駅周辺のまちの個性やポテンシャルを活かした機能イメージを示しています。このイメージを基に、取組み内容を照らし合わせて検討しています。</p>  <p>機能イメージ (基本方針_三軒茶屋駅周辺の機能イメージ参照)</p>
<p>活用可能な支援施策メニュー</p>	<p>取組みを実施するための準備・計画・実施段階において、広く活用可能と考えられる区の支援施策を整理しました。 ただし、実際の活用にあたっては、支援施策の目的や助成対象などが合致するか、要綱などを詳細に確認する必要があります。</p>
<p>区の関係所管</p>	<p>各取組みを実施する際の最初の相談先として、整理しました。区の関係所管が主導して取組みを実施するのではなく、取組む主体の相談役として位置付けています。</p>

目次

1	事例調査一覧	2
2	事例1：柏駅前広場他	6
3	事例2：札幌駅前通 北3条広場、チカホ	19
4	事例3：油津商店街	37
5	事例4：豊田市駅前空間利活	47
6	事例5：長門湯本温泉街の再生	54
7	事例6：丸亀商店街再開発	67
8	事例7：南町田駅前開発	77
9	事例8：小規模多機能自治の取組	90
10	事例9：バッドロケーション戦略	104
11	事例10：二子玉川駅周辺地区	114

添付資料4 三軒茶屋駅周辺まちづくりニュース

三軒茶屋駅周辺まちづくりニュースでは、まちづくり会議やまちづくりシンポジウムなどのまちづくりの取組みの報告や、今後の情報など、検討状況等についてお知らせしています。第1号は2020年2月に、第2号は2021年2月に発行しました。各記事の内容は、次頁以降に整理しています。